

## 天然ガス発電プラント

フィンランドの Wartsila 社は、当国で 1993 年に Nejapa、Acajutla 近郊でバンカーベースの 400MW の発電所を建設したが、2 年前よりエルサルバドルにて天然ガス発電を建設し運営することを計画、2018 年第三 4 半期から建設開始が出来る準備が出来たと発表した。当国政府のコンセッション承認待ちの状況である。

当国の会社名は Energia del Pacifico(EDP)で発電所建設場所は Acajutla 港近く、投資金額は 8 億ドル、378MW の発電を 2020 年から開始したいとしている。同港に液体ガス保管倉庫ターミナル、ガス化プラント、海底パイプライン等への投資も行う。

建設所要月数は 24ー27 ヶ月、建設中の雇用は 1000 人超、オペレーション開始後には直接工は 100 人程度の雇用となる。

燃費を最大限効率化するための燃料のコンバインドサイクルの技術があり 19 のエンジンを使用予定。

現在では世界的な流れとして再生可能エネルギーへの移管があるが、同社は再生可能エネルギーの補完として必ずガスまたは原油発電が必要とみている。

尚、液体天然ガスの供給はかつて国際入札が行われ日本勢も参加したが、2017 年 5 月に Shell International Trading Middle East 社と契約したと発表されている。